

目 次

第1部 <報 告>

日本のことわざ	宮本 常一
1 ことわざの意味するもの	6
2 隠語の効用	9
3 慣習社会	10
4 いろはくどき	13
5 いろはガルタの地方色	16
6 いろいろの「いろはガルタ」	21
7 ことわざと習俗	23
8 ことわざの教訓化	27
9 気象とことわざ	29
10 ことわざの重み	32
11 海のことわざ	35
12 ことわざと文学	37
13 ことわざの効用	40
14 無文字社会のことば	43
15 ことばの符牒化	45

第2部 <座 談 会>

ことわざとコミュニティ

- 1 (49)
ことわざとコミュニティ……相手を傷けることばは話さない
……いろはガルタを通じて、ことわざが発達した……年齢と地
方で、ことわざの数と種類がちがう……「出たとこ勝負」は西
日本で多くつかわれた……東日本では「寄らば大樹の蔭」
- 2 (54)
子供の教育にことわざを使う……農事の指導もことわざでやっ
た……私にとっての「油断大敵」……腹が北山だ
- 3 (57)
人間関係のことわざは、すばらしい知恵の蓄積……「三つ子の

- 魂百まで」は脳の生理から裏づけられる……大切な赤ん坊のは
いはい……赤子ははうもの、子供はかけるもの
- 4 …………… (63)
むらの長老の言葉づかいへの気のくばりよう……胸に手をおい
てものを言え……和田先生の「門と倉」
- 5 …………… (67)
境に入れば禁を問う、国に入れば俗を問う……人にして礼なく
んば、何ぞすみやかに死せざる……日本語のふくみ
- 6 …………… (72)
どろぼうにも三分の理……むら八分でも、火事と葬式の二分は
手伝う……うわさは公認の秘密……1年いっぺん誰のものでも
ない土地……村八分の知恵は残るか……おなぐさみ鯉1尾の代
金
- 7 …………… (78)
「今晚話に来ないか」……「ところ都だから」……その場のフ
ンイキを察する習慣……ふろ親類での話
- 8 …………… (83)
急に金とひまができて困る……ことわざに代った六法全書
……鬼ごっこができなくなった幼児達……ことわざの通じない
村はくずれる……明治維新で、なかをとりもった謡とことわざ
……郷土芸能の役割
- 9 …………… (91)
立ち話のたのしきで日が暮れた……ふえすぎた新住民……一品
会のすすめ……喜楽会で一品話の試み……いろいろの火をみなが
らの話が最高……外国人に純粹の日本家屋を見せることができ
ない……シャレやユーモアを大切に

さしえ・宮尾しげを